

# 包括だより 第13号



安芸高田市地域包括支援センターは、平成27年4月1日に市より委託を受け、高齢者の相談窓口として開所し、6年経ちました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出や集会等に出かける機会も少なくなり、身体機能の低下やこころの不調もあったのではないかと思います。早くワクチン接種等が進み終息し、以前のような生活を送りたいですね。

今回は、令和2年度に皆様から寄せられた相談内容について、記載させていただきます。詳細内容は、以下の通りです。

相談受付件数は、延べ件数で564件の相談があり、電話405件、来所125件、外出先で相談28件等となっています。

地域包括支援センターも、新型コロナウイルスのこともあり、出前講座、サロン、会議等への参加、地域での巡回訪問等出かける機会が少なかったです。

相談後、必要に応じてご自宅を訪問し、対応しております。 ◎重複計上あり

## ◎相談受付件数（実績）

電話	405
来所	125
訪問	6
外出先で相談	28
その他（会議等）	0
合計	564

## ◎相談内容

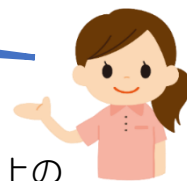
在宅介護	68
介護保険	352
認知症	38
高齢者虐待	11
成年後見	6
福祉用具・住宅改修	20
精神・健康問題	19
生活困窮	4
その他	46

## 寄せられた相談内容例

- 介護保険・・・一人暮らしになった。足腰が弱く、家事支援のためヘルパーさんに来てもらいたいけどどうしたら良いか？
- 認知症・・・物忘れの増加と、物取られ妄想があり対応に苦慮している。病院を勧めるも拒否があり受診に繋がらない。大変な状況になっているので助けてもらいたい。
- 近隣より・・・最近散歩している姿を見かけることがなくなった。新聞もたまっている様子で心配している。
- 生活困窮・・・これまで兄弟の家で居候していたが、退院後は、本人宅に戻らないといけなくなった。しかし、家もごみ屋敷で年金も少ない。どうにか在宅生活を支えてもらいたい。 など

# 認知症

誰もが気になるテーマ『認知症について』  
今回から連載で細かくお伝えさせていただきます。



認知症は誰もがかかる可能性のある身近な病気です。

2025年には認知症の高齢者は470万人に達すると予想されています。85歳以上の高齢者の4人に1人は認知症にかかるといわれており、今やとても身近な病気といえます。最近の研究から前段階である「軽度認知障害（MCI）」の段階で生活習慣を変えることで、認知症の発症を遅らせることがわかってきました。

まずは、軽度認知障害の特徴を知りましょう。あてはまることはありませんか？

- もの忘れが増えた
- 簡単な計算ができなくなった
- 料理や家事などがてきぱきできなくなった
- 今まで楽しかったことへの意欲がなくなった
- 日付や曜日がわからない
- テレビのドラマの内容が理解できなくなった
- 話しかけられると今までしていたことを忘れてしまう



いくつかの項目にあてはまるようでしたら、認知機能が衰えている可能性があります。

認知機能障害かもしれないと思ったら、ご相談ください。

相談先：医療機関（かかりつけ医、精神科等）市役所健康長寿課、地域包括支援センター等  
自分が認知症かもしれないという不安はとても大きいものです。家族や周囲が勧めても本人が受診を嫌がるという場合もあります。その時は家族だけで抱え込まず気軽に地域包括支援センターにご相談ください。

次回 → 認知症予防のポイントについて

## ♪お知らせ♪

令和3年4月より、相談窓口をさらに充実させるため、社会福祉協議会（甲田支所内）にも新たに地域包括支援センター（ブランチ）として相談窓口・電話を設置しました。ぜひ、ご活用ください。

**安芸高田市地域包括支援センター（ブランチ）**

**〒739-1101 安芸高田市甲田町高田原 1490-1**

**電話・お太助フォン 45-7530**

安芸高田市社会福祉協議会

電話・お太助フォン

安芸高田市地域包括支援センター（本所）

☎47-1132

安芸高田市地域包括支援センター（ブランチ）

☎45-7530